

5 平成10・11年度理事会活動報告

5-1 平成10・11年度理事会活動報告

上田 泰正

1 はじめに

前回の活動報告書に報告してからこの2年間で理事会を取り巻く環境は大きく変化した。それは、理事会自身の変化もあるが、学連・とりわけオリエンテーリング界の状況変化によるところが大きい。数年前より加盟員の減少が顕著となったことで、学連の経営そのものが攻めよりも守りが主となり、この2年間の理事会の活動も学連のリストラに精を出したような感もある。学連を建て直し、どうやって活力に満ち前進しつづけることができる組織を再構築するのか？この課題に取り組むために何をし、どのように学生をサポートしていくのか？こういった課題に自問自答しながら理事それぞれが課題に取り組んだ。

一方、日本のオリエンテーリング界全体を見ても、その環境は決してバラ色では無い。JOAの公認大会の参加の少なさ、競技の可能な森林の減少、などなどネガティブな話はたくさんある。明るい話の代表であるべき2005年の世界選手権はどんどん近づいてくるが、一部の人間を除いてオリエンティアの間で格別な盛り上げりは見せていない。

こういった状況を打破するためには、やはりオリエンテーリング界にあって最大勢力である学連の使命はおのずと大きくなっていくわけである。学連が全てにおいてリードしていく姿が望ましいのかと問われれば異論もあるだろうが、多くのオリエンティアが大学入学後にオリエンテーリングに出会っている状況を考えると、学連の位置付けがおのずと重要になってくるわけである。

つまり、学連の普及活動の成否が日本のオリエンテーリング界の浮沈に大きく関わってくるのである。もちろん卒業後もオリエンテーリングを様々な形で継続していける環境作りであるとか、将来大学生になる子供達への普及活動など色々な活動が考えられるし、むしろそういった活動こそ重要なかもしれない。しかしながら、こういった活動も自分自身の足元が固まっていなくては始まらないは言うまでもない。組織のありようも重要であるが、加盟員の意識が常にポジティブであることこそ最も重要である。

こんな事を意識しながら、理事会として成すべき事を実践し、同時に計画しているものである。

2 理事会の構成

各理事は担当業務を持ち、各職務分掌について全ての責任を持って担当することとなっている。ただし、理事個人で結論を出すことができない課題、全体で議論するべきと判断した命題については、メールでの議論・会議などで結論を出している。また、最低1年に1回は全員集まって会議を開催している。

上田泰正（早稲田大学卒）全体統括、スポンサー企業、JOA

大井和之（東京大学卒）トレイン管理

大滝民己（東京大学卒）組織改革、学連事務局等運営助言

加賀屋博文（筑波大学卒）技術委員会

木村佳司（山口大学卒）インカレ（シヨート）、ウェブサイト管理

土方隆（東北大学卒）インカレ（クラシック、リレー）理事会会計

広江淳良（東京大学卒）JOA、学連会計

2001 年 3 月で退任した理事

山川克則（東京大学卒、現副会長）テレイン管理
佐藤信彦（東京大学卒、現参与）技術委員会
理事会創設時より尽力頂いた両名には深く感謝するとともに、今後とも学連をサポートして頂くために現役職へ就任頂いた。

3 活動内容

- ・インカレシード選手の選考（ショート、クラシック）
- ・インカレ裁定委員の選任（ショートクラシック）
- ・JOA との折衝
- ・副会長、参与の推薦
- ・テレインコントロール
- ・学連ウェブサイトの管理
- ・各委員会への助言
- ・幹事会への助言
- ・組織あり方の検討、協議
- ・各行事への参加、助言
- ・各企業との折衝
- ・その他

4 インカレ改革

インカレの改革は当面の学連の最重要課題であるので、その概要について報告をする。

今後ここに報告された方向性を基本に具体的な方策について実施していく。これにより、学連としての活動を削減すること無く、事業の省力化を実現してくものである。なお、以下は 2002 年 3 月の総会でテレインコントロールワーキンググループより配布された資料を元に編纂したものである。

インカレはずっと最高の地図と競技の場を提供する大会として、学生 OB の運営によって開催されてきた。しかし、参加者の減少は止まらず、逆に大会ごとに実行委員会を組織して運営する方式での運営者への負担は増大する一方である。特に地図作製に関しては、競技者の地図の精度への要求が高まる一方で、それに耐える地図を描くことが少数の熟練者に依存する傾向にある。このような現状で、インカレの開催を継続していくために、以下のような改革を提案する。

- ・2004 年度から地図作製の負担の軽減を主目的に、ロング競技（現在のクラシック）を秋季に、ミドル競技（優勝設定時間約 30 分、現在のショート）とリレー競技を春季に開催する。ミドル&リレーイベントは、1:10000 で A3 の地図 1 枚で開催可能であり、ロングイベントは国際イベントを含む他のイベントとのジョイント開催が可能となる。
- ・インカレ実行委員会については、各大会ごとに実行委員会を日本学連の臨時委員会として組織する現在の方式にこだわらず、常設委員会の設置などインカレの継続的開催に適した組織作りを 2002 年度中をめどに検討していく。

開催種目の変更については、今年秋の総会をめどに関連の規則の改正作業を進めていく予定である。そのため、以下の開催地案は今後変更になることもある。

今後のインカレ開催予定地域

年度	秋季	春季
	ショート	クラシック&リレー
2002 年度	長野県菅平	愛知県下山
2003 年度	関東（栃木県）	関西（三重県）
	クラシック	ミドル&リレー
2004 年度	東海（愛知県）	関東（栃木県）